

記 入 日 2017年 1月 13日

1. 概 要

実践団体名	高知市立南海中学校		
連絡先	※代表者または担当者の連絡先電話番号		
プランタイトル	まもれ 高知 (ふるさと)	Nankai Survival Project(NSP)	
プランの対象者※1	幼児・保育園児・小学生(低学年)・小学生(高学年)・中学生・地域住民・高齢者	対象とする災害種別※2	地震・津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

中学生と地域の協働がポイント。太平洋に面し、次の南海トラフ大地震で甚大な被害が予想される高知(ふるさと)を救うのは、「地域の絆」。そう信じる私たちは、住民の避難訓練参加者数を増やすことを目指して、「地域の絆が、防災の力」をキャッチフレーズに、中学生が伝統行事や祭りを担って地域の絆を深めながら、災害への備えをひろめてきた。その手法は、生徒が「笑い」を交えて演じる「防災にわか」(高知県保護無形民俗文化財である佐喜浜にわかを模したもの)や、津波避難場所マップ、防災新聞など。中学生が手作りで、住民の意識改革による「災害に強いまちづくり」に挑戦した。

【プランの概要】

- 中学生が地域の伝統行事を担う。町おこしの新しい祭りや福祉施設の行事にも参加して、地域の絆を育み、地域を元気にする。「地域の絆が、防災の力」
- ユーモアあふれる寸劇で防災意識を高めてもらう「防災にわか」を中学生が熱演。さらに、授業で作成した「防災新聞」を地域へ発信して、地域の防災力向上に努める。
- 中学生が校区の津波避難場所一覧を作成し、住民に発信。また、校区一斉津波避難訓練や地域の防災フェアを、中学生と自主防災組織と一緒に企画・運営する。
- 中学生と自主防災組織との協働的活動で、これまでバラバラだった自主防災組織を相互につなぐ。(津波避難場所の調査、防災フェア実行委員会、校区一斉津波避難訓練の事前打合せや反省会などの実施を通して)

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 中学生が地域で活躍すると、地域に深い絆と活力が生まれ、地域全体の防災力が向上する。
- 地域の自主防災組織が横につながり、地域全体の防災力・防災意識が向上する。

2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	どろんこ祭り 津波避難場所の調査		どろんこ祭り参加 津波避難場所の現地調査 (自主防災組織と合同で)
5 月	長宗我部まつり 津波避難場所マップ作成	防災フェア実行委員会 防災フェアちらし作成	長宗我部まつりにおいて、防災にわか披露と吹奏楽発表
6 月	津波避難場所マップを地域・保 育園児・小学校児童に配付 防災フェアちらしを地域配付	防災フェア実行委員会 防災フェアちらし配付	防災フェアちらし作成と配付 津波避難場所マップ作成と地域・保育園児・小学校児童 に配付
7 月	防災フェア		防災フェアの実施 大船渡市立日頃市中学校との TV 会議 (HUG を実施)
8 月		校区一斉津波避難訓練事前打合せ	高知県危機管理展において、防災にわかを披露 地域の会合で校区一斉津波避難訓練の説明を実施 津波避難場所の整備 (自主防災会との合同作業)
9 月	校区一斉津波避難訓練		
10 月			元親こじゃんと楽市において、防災にわか披露と吹奏楽 発表 高知市社会福祉協議会において、防災にわか披露
11 月	桂浜防災啓発活動 防災新聞の作成		校区一斉津波避難訓練 (台風のため延期して実施した) 防災新聞の作成 (授業において)
12 月	防災マップの作成 防災新聞の地域配布	校区一斉津波避難訓練反省会	市民防災フォーラムにおいて、防災にわかを披露 2 年生が総合の授業で作成した防災マップを地域に配布
1 月	防災マップの地域配布 (校区の 保育園児・小学校児童に配付) 保小中合同避難訓練及び小学 校での防災学習成果発表会		1 年生が総合の授業で作成した防災マップを地域に配布
2 月		平成 29 年度防災フェア実行委員会	高知竜馬マラソンにおいて、防災啓発チラシ (津波避難 所マップ) の配付 保小中合同避難訓練及び小学校での防災学習成果発表会
3 月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	防災フェア
実施月日（曜日）	7月9日（土）
実施場所	高知市立南海中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：緒方 健 所属・役職等：高知市立南海中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前中 4時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	地域の防災意識を高めるために、地域と中学生と一緒に訓練する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主防災組織と中学生による防災フェア実行委員会の結成 ○ 防災フェア実行委員会での実施に向けての協議（地域住民の希望訓練内容の把握、訓練内容の打合せ） ○ 中学3年生による関係諸機関・協賛企業との訓練打合せ ○ 関係機関と中学3年生による各種訓練の運営
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施要綱の作成 ○ 防災フェアのチラシ作成と地域への配布 【協力関係機関と協賛企業】 高知県警察・自衛隊・日赤高知県支部・高知市防災対策部・高知市消防局・ホームセンターハマート横浜店・国土交通省四国整備局高知河川国道事務所・久保建設株式会社・ミタニ建設工業株式会社・ジョウトク建設株式会社
参加人数	中学生 210名 幼児 40名 小学生 30名 地域住民 50名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 今年度から地域との共催行事にしたことで、住民の希望に添った訓練を新たに実施することができた。また、企業にも参加してもらったおかげで、イベントとしての付加価値も高まったと感じている。 【課題】 まだまだ住民の参加者数が少ない。さらに地域の要望に応えられるイベントへと価値を高めたい。
成果物	防災フェアのチラシ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	南海中学校区一斉津波避難訓練
実施月日（曜日）	11月13日（日）
実施場所	校区内津波避難場所（31箇所）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：緒方 健 所属・役職等：高知市立南海中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前中3時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	在宅時の津波避難への意識向上と避難行動定着のための避難訓練
達成目標	地域住民と協力して、在宅時の津波避難の訓練を実施する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主防災組織との事前打合せ ○ 自主防災組織と避難場所リーダー（中学生）との打合せ ○ 地域での避難訓練の啓発活動 ○ 避難訓練の実施 ○ 自主防災組織との反省会
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校区津波避難マップの作成と地域配布 ○ 実施要綱 ○ 避難者受付名簿 ○ 避難訓練参加者の統計資料
参加人数	877名
経費の総額・内訳概要	校区津波避難マップの作成 70,000円
成果と課題	<p>【成果】 中学生は全員が非常持出袋を持参して、自宅から避難訓練が実施できた。また、中学生と自主防災組織が連携することで、地域の防災文化の継承や、次世代の防災リーダーの育成に寄与できた。</p> <p>【課題】 当初の予定の9月が、台風のため延期となったことで、目標にしていた地域住民の参加人数が達成できなかった。また、避難場所に避難した後の訓練内容の充実が必要である。（トイレの設置訓練や炊き出し訓練など）</p>
成果物	南海中学校区津波避難マップ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>昨年度の校区一斉津波避難訓練の参加者の分析から見えた、本校区の課題は以下の3点であった。</p> <p>① 校区住民の僅か4%程度の参加しかなく、校区全体の防災意識が低い。</p> <p>② 乳幼児・小学生の参加者数が特に少なく、低年齢層の防災意識が育っていない。</p> <p>③ 高齢者（特に80歳以上）の避難意欲が低下している可能性がある。</p> <p>これらの課題解決をはかり、校区一斉津波避難訓練への参加者数を増やすことで、校区住民の防災意識を高めるプランにすることが必要であった。</p> <p>中でも、校区全体の防災意識を高めるにはどうするのか…という点で苦勞した。その為には、コミュニティとしての地域全体への働きかけが重要だが、そもそも、私たちの地域に「機能するコミュニティ」が存在しているのかどうか疑問が沸いた。</p> <p>そこで、まずコミュニティの再構築を目指して、『地域の絆』づくりに取り組む作戦を立てた。「地域の絆が、防災の力」というキャッチフレーズを決め、防災活動だけでなく、様々な地域行事に中学生が関与することで、地域の絆を深めることを目指した。これこそが最大の工夫であり、わたしたちの活動の出発点になった。</p>
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>いかに地域との連携の中で、地域の防災意識を高めるための活動を仕組んでいくのかということが、最大の苦勞であり、最も工夫した点でもあった。</p> <p>まず、実のある連携となるには、連携パートナーが、本当に地域を代表する組織や人物であるかどうかの見極めが重要となる。仮に、連携パートナーが地域での信頼や活動実績が不十分な場合、連携は極めて限定的になり、その取り組みはスタート段階から失敗する。</p> <p>そこで、準備活動として、まず地域内で様々な団体をつなぐ役割を果たしている地域連携協議会をパートナーとして選び、『南海中学校区地域校舎協議会』を組織した。この協議に、各地区の自主防災組織の代表、校区の保育園・小学校・中学校が参加するようにしたことで、校区全体を網羅する防災活動の協働体制を構築した。</p> <p>また、地域をつなぐ地域連携協議会を連携パートナーとしたことで、地域が抱えている現実的な課題がリアルタイムに学校に寄せられるようになった。そのため、地域コミュニティの再構築に向けても、それぞれの立場から協働的に地域の絆づくりに貢献できる準備が整っていった。</p>
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<p>実践においては、学校が地域の現実的な課題や要望にまず耳を傾けることで、独善的で、ひとりよがりの防災教育から、地域に必要とされ、地域の課題を解決できる防災教育に脱却しようと考えてきた。</p> <p>例えば、校区の津波避難場所マップを作成するにあたって、地域の自主防災組織と一緒に現地調査をすることで様々な発見があった。一例を挙げると、地名には地域独自の呼び名があり、その方が圧倒的に多くの住民に受け入れられているものだが、これまでのマップは行政の呼び名で標記していたので、「どこの場所を指しているのか分からない」といった指摘があった。そういった生の意見を聞いて、表記を改訂することで、より地域に必要とされるマップへと生まれ変わった。</p> <p>こういった些細なことでも、地域との距離を埋め、地域全体の防災意識の向上をはかるには、学校側が地域の意見を真摯に聞き入れる柔軟な思考と実践が必要なのである。</p> <p>このように、地域の課題を解決できる防災教育であること、防災活動は地域全体で行わなければ効果を生まないことを念頭に置いた実践に努めてきた。</p>

5. 他の団体，地域との連携

協力・連携先の分類	団体名，組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	大船渡市日頃市中学校	TV会議によるHUGの実践交流会
	南海中学校区保小中連携協議会	校区一斉津波避難訓練 合同避難訓練 防災学習成果発表会 防災フェア
	南海中学校区地域校園協働会議	すべての地域行事
保護者・ PTAの組織	南海中学校PTA	防災フェアの実施
地域組織	長浜南岸・御畳瀬・浦戸地区 自主防災連 合会傘下の自主防災組織と長浜北岸地区 の自主防災組織（およそ30団体）	防災フェア実行委員会 校区一斉津波避難訓練 （事前打合せ・反省会を 含む）
国・地方公共団体・ 公共施設	高知県警察・自衛隊・日赤高知県支部・高 知市消防局・国土交通省四国整備局高知河 川国道事務所 高知市防災対策部 地域防災推進課	防災フェアの訓練協力 校区一斉津波避難訓練 （事前打合せ・反省会を 含む）
	高知市市民協働部コミュニティ推進課 長浜，御畳瀬，浦戸の各ふれあいセンター	地域の祭り等の諸行事
企業・ 産業関連の組合等	ホームセンターハマート横浜店・久保建設 株式会社・ミタニ建設工業株式会社・ジョ ウトク建設株式会社	防災フェアの協賛企業
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	高知市社会福祉協議会	地域の敬老会等との連 携
職業，職能団体・ 学術組織，学会等		



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>中学生が地域の伝統行事や祭りを担い、率先して地域の防災活動を行うことで、地域住民は学校や生徒への信頼を深める。生徒は、大人に認められたり、地域の安全や防災に懸ける大人の情熱に触れたりすることで、ふるさとへの愛着が湧いてくる。</p> <p>これらの相乗効果で、本校の防災教育が、学校のひとりよがりなものから、地域の課題を解決する協働的な防災活動へと進化し始めた。その結果、生徒の防災学習へのモチベーションや自尊感情の向上にもつながっていった。</p> <p>また、中学生と自主防災組織が協働的に地域の防災活動を推進することで、学校と地域はもちろん、地区ごとで活動していた自主防災組織のさまざまな活動が横へとつながり、面となって、校区全体の自主防災組織や防災活動が活性化するという効果もあった。</p> <p>さらに、中学生が地域で「防災にわか」を演じたり、地域に津波避難マップや防災新聞を配布したりすることで、学校の防災教育への期待感が増すだけでなく、学校が核となることで災害に備える「防災文化」が地域に根付き始めたと感じている。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>校区一斉津波避難訓練の実施が台風で延期になったことで、残念ながら参加者は昨年度から増えなかった。しかし、「防災にわか」の出演依頼が多くなるなど、確実に防災文化が地域に浸透しだしたことを肌で感じている。</p> <p>また、まずは地域のコミュニティの再構築に取り組もうという考え方は、地域と学校の距離を近づけた。このことで、大きく二つの効果があった。</p> <p>ひとつは、地域と学校が様々に協働的な活動を行うことよって、これまで地区ごとにバラバラで取り組んでいた様々な行事や活動がある程度一元化するようになったことである。そのことで、防災活動においても、校区内の自主防災組織の取組みが横へとつながり、面となって校区全体の自主防災組織の活性化にもつながっていった。</p> <p>ふたつには、中学生が地域に貢献するという使命感や貢献できた喜びを感じることで、自尊感情の向上にもつながり、防災学習への意欲にも高まりが見られるようになったことである。</p> <p>この取組みを継続していくことで、防災文化が地域に構築できると確信した。これらの様々な取組みは、学校と地域の協働的な防災活動の展開や地域全体の防災文化の構築、さらには安心して安全な町づくりに向けて、全国に発信できるプランとなると確信している。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>これまでの地域住民との様々な防災活動を通して、地域の更なる課題が見えてきた。</p> <p>それは、「避難時の要支援者への手立てがまったく立っていない」ということである。わたしたちのプランが最終的に目指すのは、津波災害による校区住民の犠牲者0である。そのためには、防災文化が構築されるとともに、すべての住民の具体的な避難の手立てを立てることが必要である。</p> <p>今後は、要支援者個々の避難支援に向けて、中学生に何ができ、何が支援となるのかを考え、できることから確実に実践していく必要がある。</p> <p>その上で、これまでの取組みとまとめて、「地域ぐるみの避難行動に向けた、パッケージとしての防災教育プラン」の構築を目指し、全国に向けて発信していきたいと思う。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)